

●札幌大通地下ギャラリー「500m 美術館」の開設について

札幌市では、平成 18 年度から「さっぽろアートステージ」の美術部門として、地下鉄大通駅とバスセンター駅を結ぶコンコースを会場に 11 月限定でアート作品を展示してきた「500m 美術館」の常設化に当たり、美術関係者などで構成される委員会を設置し、整備内容の検討を進めてきたところです。

このたび、整備内容が固まったことから、平成 23 年 11 月 3 日のオープンに向けて、工事に着手することになりました。駅施設内の通路に設置するギャラリーとしては日本で最長の施設が誕生します。

このギャラリーにさまざまなアート作品を通年で設置することで、市民が国内外の多彩な芸術文化に触れる機会を増やすとともに、札幌で活躍するアーティストを内外に発信していきます。

1 名称

札幌大通地下ギャラリー（愛称：「500m 美術館」）※

※ 常設化に伴い名称を変更しますが、市民に親しまれてきた名称である「500m 美術館」は、愛称として残すこととしました。

2 工事期間およびオープン日

工事期間：平成 23 年 9 月 15 日（木）～11 月 2 日（水）

オープン日：平成 23 年 11 月 3 日（木・祝（文化の日））

3 施工概要

- (1) 施工場所：地下鉄「大通駅」と「バスセンター前駅」を結ぶ地下コンコース約 500m の区間
- (2) 展示可能壁面：216m
- (3) 主な特徴：
 - ① “地下通路に設置された展示空間”という特殊性を際立たせるため、両端（大通駅側およびバスセンター前駅側）に美術館としての“構え（エントランス）”を設置。
 - ② 作品が映えるよう展示壁面には白色のコンポジットパネルを張り付け、LED スポットライト 200 灯を設置。（コンポジットパネルゾーン：132m）
 - ③ 立体作品の展示を可能にするため、一部にショーウィンドーのような強化ガラスで囲まれた展示空間「展示ケースゾーン」を設置。（展示ケースゾーン：84m）
 - ④ 展示ケースゾーンで最長 12m、コンポジットパネルゾーンで最長 19.2m の連続した展示可能壁面を整備。長さを生かした作品の展示が可能。
 - ⑤ メディアアート（映像作品）も展示できるよう、超短焦点プロジェクターを 2 台備えるとともに、両エントランスに計 6 台の大型モニターを設置。
 - ⑥ ベンチ 5 台を更新。統一感を演出。

4 オープニング記念展

札幌で優れた活動をしている芸術家（約 50 人）の作品を一堂に集め、前半・後半の 2 期に分けて展示する。

- ・前半展：平成 23 年 11 月 3 日（木・祝）～平成 24 年 1 月 28 日（土）
- ・後半展：平成 24 年 2 月 4 日（土）～平成 24 年 4 月 28 日（土）

<位置図>



問い合わせ先

観光文化局文化部市民文化課 小田垣、納（おさめ）、伊藤
電話 211-2261